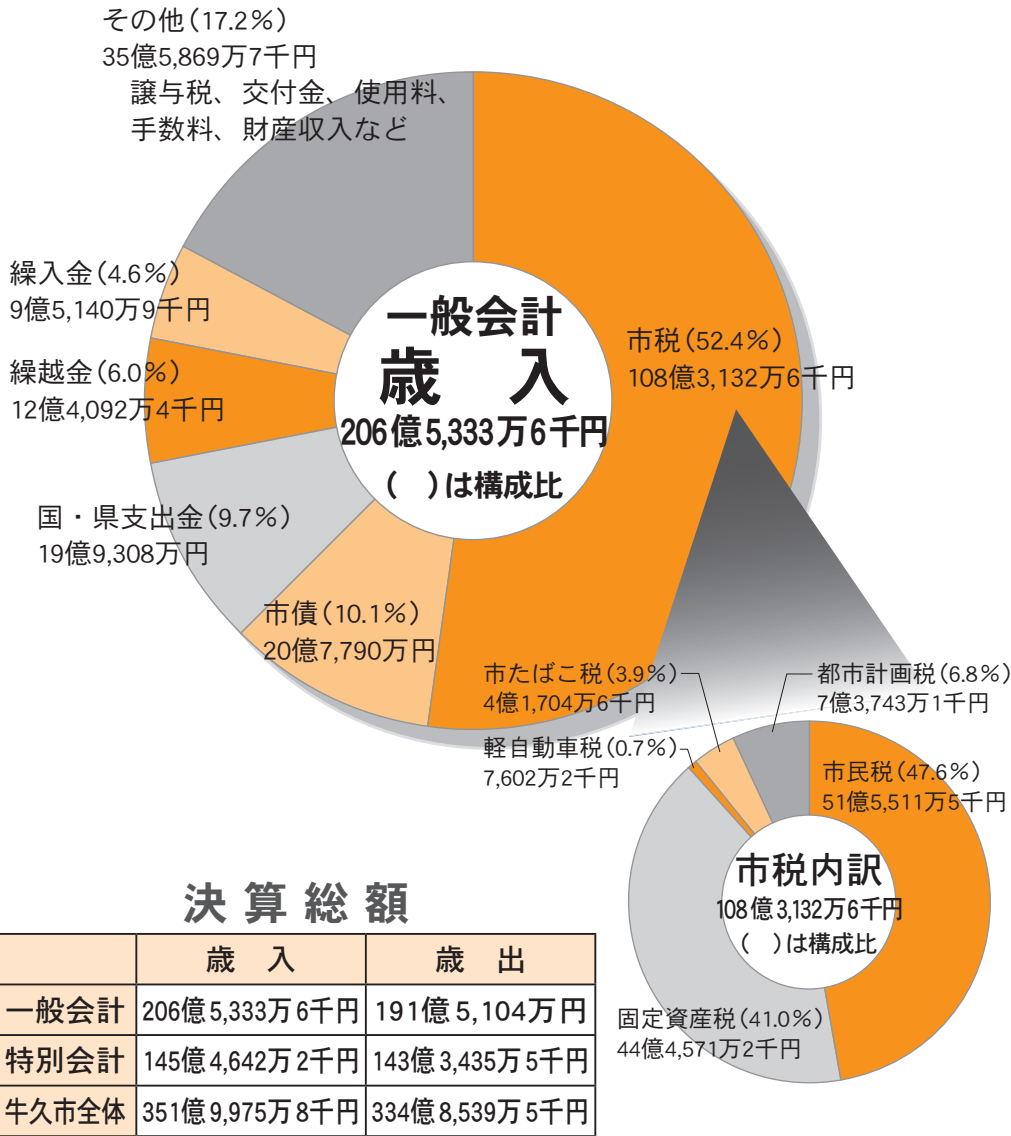


# 平成18年度決算状況

をお知らせします

## 一般会計歳入



## 決算総額

|       | 歳入            | 歳出            |
|-------|---------------|---------------|
| 一般会計  | 206億5,333万6千円 | 191億5,104万円   |
| 特別会計  | 145億4,642万2千円 | 143億3,435万5千円 |
| 牛久市全体 | 351億9,975万8千円 | 334億8,539万5千円 |

### 【指数で見る財政状況】

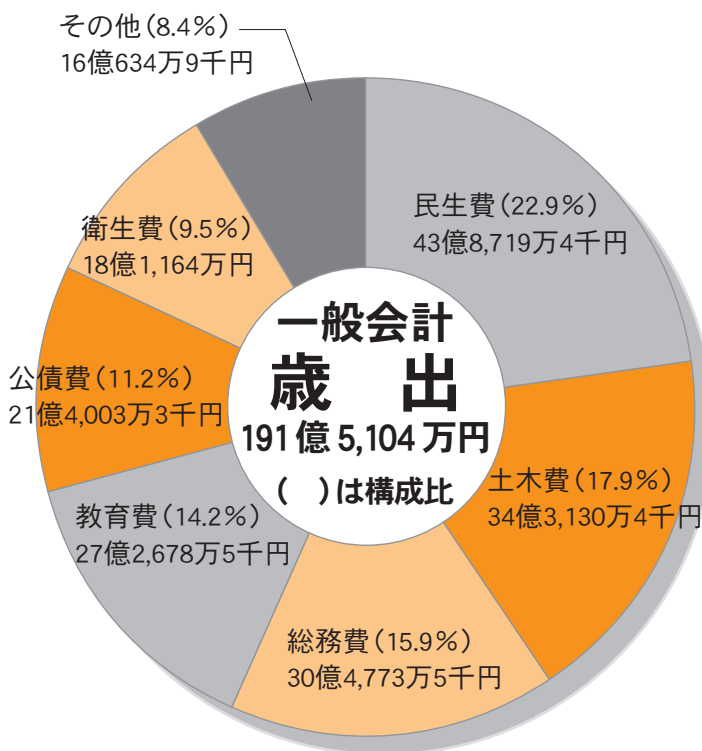
8月27日から9月12日まで開催された平成19年第3回牛久市議会定例会で、平成18年度の牛久市一般会計および7つの特別会計の決算が承認されました。今回は「市の家計簿」ともいえる平成18年度の決算状況についてお知らせします。

平成18年度の歳入歳出決算額は、歳入歳出ともに平成17年度より減となりました。前年度は市内金融機関から借り入れた市債の借換債が含まれており、これを除くと、歳入で約19億円、歳出で約16億5千万円の大幅な増額となります。これは、運動広場整備や市営住宅建設など大規模な建設事業をはじめ、子育て支援事業、教育環境の整備など市民生活に密着したさまざまな施策を行ったためであり、市債の借換債を除くと平成13年度をピークとして、年々減少を続けていた決算額は、5年ぶりに増加に転じました。

平成18年度の決算状況を自治体の財政状況を示す主な財政指標からみると、財政構造の弾力性を測定する比率として使われる**経常収支比率**は、90・0%（前年度89・7%）となりました。この指数は、80%を超えると財政の硬直化が進みつつあるとされ、投資的な事業への財源的な制限がされるものとなります。近年は90%前後で推移しており、今後も経常経費の抑制に努めていかなければなりません。財政力を示す指標として用いられる**財政力**

※円グラフの構成比は、四捨五入などのため、合計が必ずしも100%になるとは限りません。

## 一般会計歳出



### 【一般会計歳入】

前年度と比較して1,819万3千円(0.1%)の減となりました。前年度は市内金融機関から借り入れた市債の借換債が含まれており、これを除くと、19億1,540万7千円(10.2%)の増となります。

歳入の半分以上を占める市税をみると、固定資産税、都市計画税は減少したものの市民税が増加しており、市税全体では前年度比7,630万2千円(0.7%)の増となりました。また徴収率は90.7%と前年度比で0.7%向上しています。

市の借金である市債は、借換債を除くと前年度比7億5,610万円(57.2%)の増となりました。

### 【一般会計歳出】

前年度と比較して2億7,956万5千円(1.4%)の減となりました。歳入同様前年度は市債の借換債が含まれており、これを除くと、16億5,403万5千円(9.5%)の増となります。歳出のうち最も多いのが民生費で、前年度比3億4,666万8千円(8.6%)となっており、社会福祉費や児童福祉費、生活保護費などが含まれます。次いで土木費は前年度比8億4,413万6千円(32.6%)の増で、市道整備事業、土地区画整理事業、市営住宅建設事業などが含まれます。

## 特別会計 会計別決算状況

| 特別会計事業名  | 歳入額          | 歳出額          | 差引額       | 特別会計事業名 | 歳入額          | 歳出額          | 差引額         |
|----------|--------------|--------------|-----------|---------|--------------|--------------|-------------|
| 国民健康保険事業 | 60億5,946万3千円 | 60億3,649万3千円 | 2,297万円   | 老人保健事業  | 41億1,019万5千円 | 41億1,019万5千円 | 0円          |
| 公共下水道事業  | 18億5,056万4千円 | 18億128万6千円   | 4,927万8千円 | 小規模水道事業 | 3,392万6千円    | 2,776万3千円    | 616万3千円     |
| 青果市場事業   | 3,185万8千円    | 3,185万8千円    | 0円        | 介護保険事業  | 24億5,903万2千円 | 23億2,537万6千円 | 1億3,365万6千円 |
| 市街地再開発事業 | 138万4千円      | 138万4千円      | 0円        |         |              |              |             |

指数は0.963(前年度0.938)となりました。この指数は「1」に近く、「1」を超えるほど財政力が強く、財源に余裕があるとされているものです。当市では指標上では財源に余裕があるとされていますが、実際には経常的な支出も多いため、今後も引き続き経常的な経費の見直しを進めていかなければなりません。

最後に、市の実質的な負債の負担割合を示す**実質公債費比率**は、11.8%(平成16年度より平成18年度の3カ年の平均値)となりました。これは財政規模に対する負債の割合を示すもので、この率が高いほど負債の返済による、財政運営の硬直性の高まりを示すものとされています。この割合が18%を超えると、地方債発行に際して国の許可が必要となり、25%を超えると地方債の発行が一部制限されます。

当市では基準を大きく下回っていますが、今後、大規模な建設事業の実施により、多額の市債を発行することになるため、市債の残高の状況、各年度の償還状況をしっかりと把握し、管理をしていかなければなりません。

平成18年度は、平成16年度以降取り組んできた委託経費の見直しや人件費の見直しなど内部管理経費の削減に努める一方で、さまざまな施策を実施したことにより、減少を続けていた決算額が増加に転じました。今後も財政改革大綱などに基き、引き続き事務事業経費の見直しなどを行い、財政の健全化に努めながら、市民生活重視の施策を展開していきます。

# 平成18年度決算 市のお金の使い道

市民1人当たりの支出額(年額)で見ると…

市民1人当たりの市税額  
約139,200円  
市民1人当たりの支出額  
約246,100円

(人口は平成19年3月31日現在の数字で計算)

## 民生費

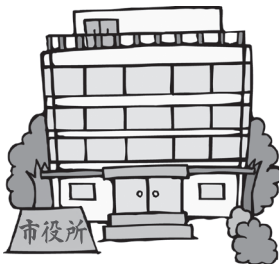
約56,400円(7.4%増)

- ・障がい者援護サービス
- ・生活保護費の支給
- ・老人クラブの育成
- ・保育園の運営費
- ・子育て広場の運営費
- ・児童手当、児童扶養手当の支給
- ・医療費の助成 など



総務費 約39,200円(6.4%減)

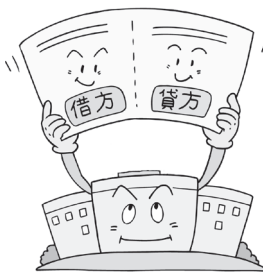
- ・人件費
- ・情報公開推進
- ・交通安全対策
- ・地域防犯対策
- ・ISO14001の運用
- ・広報紙発行
- ・基幹システムの構築 など



公債費 約27,500円(49.1%減)

17年度借換債を除くと5.2%減

- ・市が、道路や建物など多額の費用がかかるものを造る際に借りたお金の返済に充てられます。後の世代を含め、将来に渡って返済していきます。



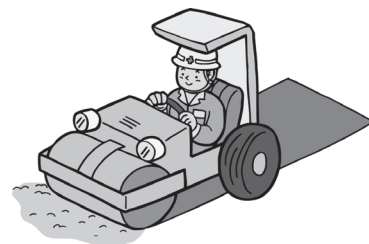
教育費 約35,000円(28.7%増)

- ・小中学校、市立幼稚園の管理運営
- ・奥野小学校の改修
- ・救急救命講習の実施
- ・生涯学習センター講座開催
- ・各種スポーツ大会開催
- ・図書館の運営
- ・栄町運動広場整備 など



土木費 約44,100円(31.3%増)

- ・市営住宅建設
- ・牛久駅西口北土地区画整理
- ・牛久駅西口アクセス道路建設
- ・城中・田宮線整備
- ・市道整備
- ・自然観察の森の維持管理 など



## 消防費

約12,300円(2.5%増)

- ・稲敷広域消防の運営経費
- ・市消防団の運営
- ・消火栓など消防施設の整備
- ・自主防災組織の育成経費
- ・防災用地の購入 など



衛生費 約23,300円(3.3%減)

- ・ごみ収集・運搬業務の委託
- ・清掃工場の維持管理
- ・うしくあみ斎場の運営
- ・予防接種の実施
- ・各種検診の実施
- ・健康づくり体制の整備
- ・環境対策事業 など



商工費 約3,700円(48.0%増)

- ・中小企業に対する資金融資
- ・消費生活問題に関する情報提供
- ・観光協会、商工会の活動助成
- ・河童の碑の周辺整備 など



## 農林水産業費

約2,200円(4.8%増)

- ・認定農家の育成
- ・転作指導による計画的な米の出荷の誘導
- ・使用済み農業用ビニール・ポリの回収 など



## 議会費

約2,400円(増減なし)

- ・定例会、臨時会、委員会などの開催
- ・市政に関する調査研究、視察 など

